

# 辻 寛子 interview



## Q. マリンバと出会ったきっかけは？

中学に入学して、吹奏楽部に入部しました。小学校の時に鼓笛隊でトランペットを吹いていたこともあり、自分はトランペットを吹きたかったのですが、親の勧めで打楽器パートに。そんな中、音楽の先生が高校での音楽受験を勧めてくれました。そこでご縁があった打楽器の先生のご自宅に、マリンバが置いてあったんです。はじめて大きなマリンバを目にして、そしてそれを演奏されている先生の姿を見て、絶対この楽器を弾きたいと思いましたね。小さい頃からピアノを習っていたこともあり、メロディー楽器に興味がありました。じっとしていないタイプだったので(笑) マリンバは私にはぴったりだったかと思います。

## Q. マリンバを続けようと思ったのは？

高校、大学と音楽科に入っているのですが、卒業の際に迷わず一般就職ではなく、マリンバ教室の開設を考えました。自分がここまで好きになって、なくてはならない存在となった楽器の魅力を、一人でも多くの方に届けたかった。お弟子さんを持つことは、期待と希望の星を育むこと。強い使命感で運営していましたね。マリンバ奏者が増えるということは、それだけ、町にマリンバの音色があふれるということ。素敵だなんて。

## Q. マリンバの魅力は？

音色ですね。そして、一台のマリンバで音楽のあらゆる要素を用いて表現できる、ソロ楽器として確立しているところも魅力のひとつです。音楽にはメロディー・和音・リズム、この三つの要素がとても重要なのですが、この全てを一人の奏者で奏でることができる楽器って、意外と少ないように思います。アンサンブルももちろん楽しいのですが、ひとりの世界観で表現できるのは、個性的な私には(笑) とても居心地が良く、弾き心地の良い楽器です。

## Q. 4つの公演をひとつの「音楽祭」という形にしたのはなぜ？

マリンバには様々な表情、魅力があります。それを同時に楽しんでいただける公演を開催したいと思いました。マリンバという共通の媒体を通して、多種多様な音楽、そして個性の違う奏者が奏でることで見えてくる、マリンバの魅力や面白さを皆さまに感じていただけたらと思っています。

また、多種多様な音楽を組み込むことで、はじめての人、いつもご来場くださるお客様、マリンバを専門に学んでいる方など、様々なお客様に触れていただけるのも狙いとしてありましたね。

## Q. てのひらコンサートはどのような公演？

私のライフワークでもある“てのひらコンサート”は、とてもアットホームなコンサートです。

音楽はもちろんのこと、そこに集う奏者や関係者の温度をきっと感じていただけることと思います。

下手したら、音楽よりトークの方が印象に残ってしまうかも(笑)。でも、集う方々が幸せな気持ちになってもらえるところが、てのひらコンサートの最大の魅力だと私は思っています。

てのひらコンサートのキャッチコピーは「ちょっと一息 いっぱい幸せ」。もみじ饅頭の老舗やまだ屋さんのお饅頭工場のおのファクトリーショップにて、2013年春に産声をあげました。それから7年。季節ごとに開催を続け、記念すべき30回目を目前に休止している状況です。場所の都合で、休止を余儀無くされていますが、皆さまに安心安全にお届けできる場所でのお引越コンサートとして、この度は約2年ぶりの開催となります。

いつものメンバーでお迎えいたします！乞うご期待です！

## Q. 音楽祭の中の他の公演の魅力は？

音楽祭を開催しようと構想を練って、迷わず二人の奏者に連絡をしました。

私は私独自の活動理念を持っています。それを押し付けるつもりも強制するつもりも全くなく、でも、その理念を支えてくれる、形へと導いてくださる奏者であることが重要です。

松本さんは、私の期待と希望の星の教室“辻寛子マリンバクラス”のお弟子さん。若い松本さんが思い描く世界は、きっとこのコロナ禍で止まりかけていたなにかに、希望を見出してくれるであろうと思いました。松本さんが取り組んでいる“朗読と音楽のコラボレーション”はとても新しく、でも馴染みやすい企画であると思います。きっと、新たな発見、というお土産を持ち帰ることのできる公演になることと思います。松田さんは私の活動でいつもお世話になっている奏者さん。演奏を共にし、音であったり息づかいであったりを隣で感じながら、同じマリンバ奏者としていつも学ばせていただいています。ある意味、私も松田さんのいちファンであります。そんな松田さんだけの世界で奏でる公演を私自身とても楽しみにしています。マリンバに真摯で誠実に向き合う松田さんのマリンバの音色をお楽しみいただけたらと思います。

## Q. コロナ禍で気づいたことは？

目に見えないものの大切さ。そして、想像力は人のこころを豊かにすること。

会うことが困難になってしまい、遠くにいる大切な人を思ったり、世界の人々の幸せを願ったり。

皆さん想像力を働かせた1年半ではなかったでしょうか。

音楽も人の想像力があってはじめて彩りを増していきます。音楽のない世の中なんて考えられませんね。

この度は文化庁の補助を受けての公演なのですが、とてもありがたい制度だと思っています。

国の補助があって活動が続けることができる。これは、文化芸術が必要とされていることに繋がります。

目に見えないものの重要性を改めて感じました。

## Q. アフターコロナをどう想像しますか？

私を含め、自粛生活の中で、大切なことに気づかれた方がきっと多くいらっしゃったと思います。

ですので、今より良い世の中になっていると思います。

## Q. 公演に来てくださる皆さまにメッセージを！

きっとどの公演も良い時間をお届けできることと思います！

そのためにも安心安全にお届けできるよう、会場の感染症対策はきちんと講じておこないます。しかし、道中など皆さまお一人お一人の感染症対策も非常に重要となりますので、くれぐれもお気をつけてお越しくださいませ。

また、少しでも不安な方は、無理をされないでください。おとつき音楽事務所はこれからも変わらずモノづくりを続けます。気になることがございましたら、いつでもお問い合わせください！

## Q. 辻寛子にとって音楽とは

私の生きる上でなくてはならないもの。全てですね。

生きる上でとても大切な想像力を育んでくれるものであり、こころを豊かにしてくれるものです。

## Q. コロナ禍でハマったものは？

糖質制限をしたお菓子作り！

きな粉蒸しパンにはまりましたね～。フライパンで簡単にできるのでオススメです！

あとは、モデルさんが発信しているストレッチにハマりました。おかげさまで、腰痛が良くなりました！今でも毎日続けています。あとはアイハーブ(通販サイト) かな。オーガニックとか有機とかが好物になりましたね。やはり体と向き合った自粛生活ということでしょうか(笑)